地域の歴史を探る会 【活動報告】 2024年8月17日 参加者 28名

自ら信じているから 仏の教えを伝えている 圓立寺

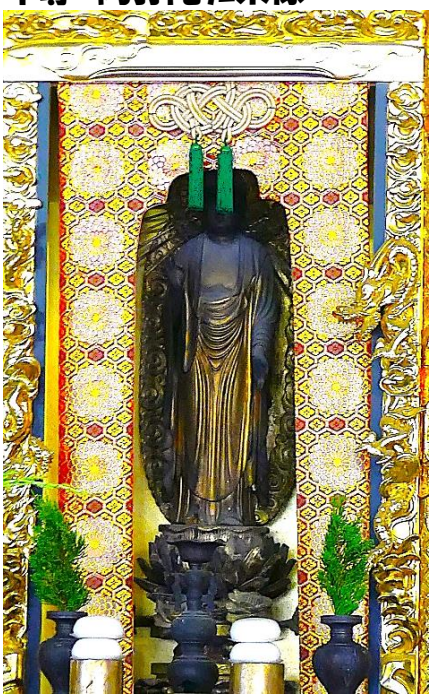
鐘楼　山門　本堂　手水舎　蔵

山　号	三木山
宗　派	浄土真宗 本願寺派
本　尊	阿弥陀如来
開　基	源性法師
創　建	1224年（元仁元年）真言宗 薬師寺 1467年（応仁元年）浄土真宗に改宗 （1608年　東本願寺から西本願寺に） 1608年（慶長13）圓立寺に改名
住　職	横田 純雄
住　所	岡崎市上三ツ木町北島２

お話頂いた **横田住職**

◆私は23代目の住職です。先代（22代 純也）が私の父ですが、教師をしていまして長く六ツ美中学校に勤めていました。父とは、交流とか意見を交わすということはなかったですが、尊敬している部分はありました。いずれは寺を継ぐとは思っていましたが、“当然長男が‥”という父に反発して素直ではなかったです。しかし、結果住職を継いでいます。その父の作った当寺の「しおり」をお配りしてありますが、まず、それを説明しながら寺の歴史についてお話ししていきたいと思います。

本尊　阿弥陀如来像



火事で宝物がなくなる

◆当寺は元は真言宗で「**薬師寺**」と言いました。800年前の開基開山は、越後城野主の嫡男が出家した源性法師です。6代善性の時（1467年 蓮如の時代）、浄土真宗（本願寺）に改宗し、寺号も「**善正寺**」と改めました。

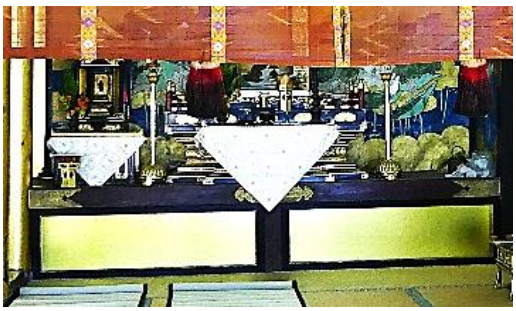
◆徳川の代になって、東本願寺ができ真宗が２派に分かれると、10代大円は1608年（慶長13）に東本願寺（現 真宗大谷派）に改派し、寺号も「**圓立寺**」としました。その後、13代秀頓は、1683年（天和3）に本願寺派（西本願寺）に属し今に至ります。

◆宝物もあったようですが、1746年（延享3） 16代円山の時に火事になり、寺がなくなり宝物もなくなってしまいました。

◆焼けた本堂は1806年（文化3）17代測定の時に再建しています。それから三河地震などで痛んで、私が子供の頃はつっかい棒が4本あって、それに乗って遊んで怒られたりしました。その後も伊勢湾台風で痛みましたし、1997年（平成9）先代（純也）が修復をしきれいになりました。

本堂　1806年建立（再建）

右余間（向かって左）　右脇壇　内陣　左脇壇　左余間（向かって右）



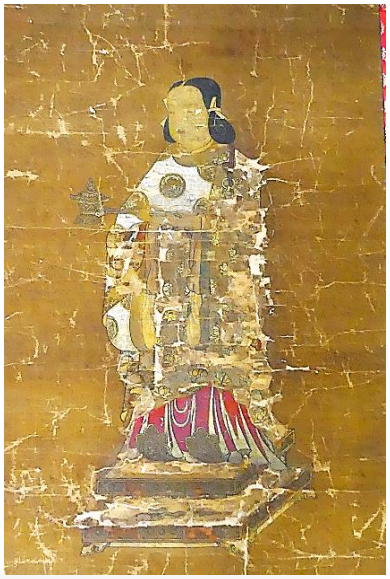
親鸞聖人御影

第21代本願寺門主明如 御影

◆本堂の内陣にはご本尊が祀られていますが、左右に脇壇があり、浄土真宗本願寺派では、ここには向かって右側に「親鸞聖人」、左側に「蓮如上人」の掛け軸を安置するのが基本です。しかし、当寺は以前から、左側には歴代の門主を祀っています。なので「蓮如上人」は左余間（向かって右）にお飾りしてあります。左余間には「聖徳太子立像」もあり、右余間（向かって左）にも「聖徳太子絵図」がお飾りしてあります。右余間には「七高僧図」もあります。そんな配置になっています。

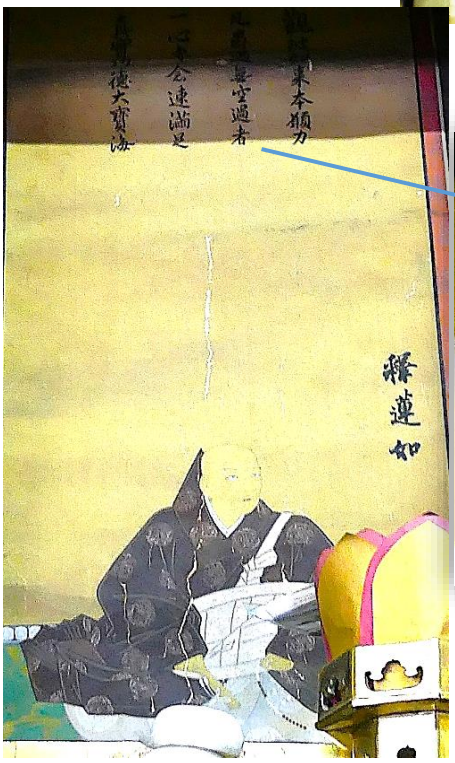
聖徳太子立像

聖徳太子絵図



七高僧図

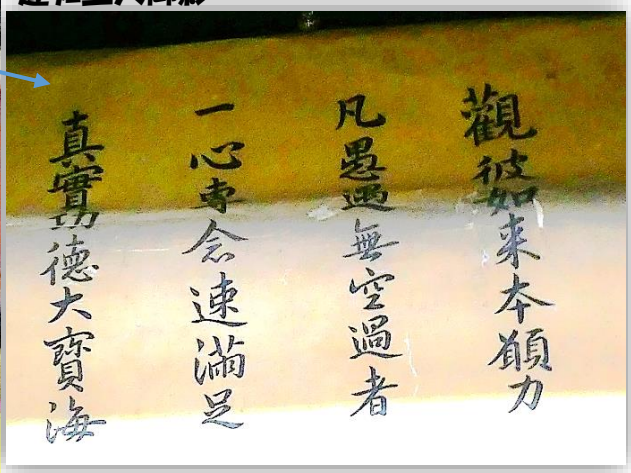
◆珍しいのは「蓮如上人」の掛軸です。掛軸の上の方にお経が書いてあります。普通、お経は書いてありません。
そういう意味では、この一幅が今の当寺のお宝と言えるかもしれません。



◆このお経の意味などについては、またあとでお話しすることにしまして、19代住職の住導の描いた絵が、襖とか格天井とかにあります。
これも、当寺のお宝ですので、見ていただきたいと思います。

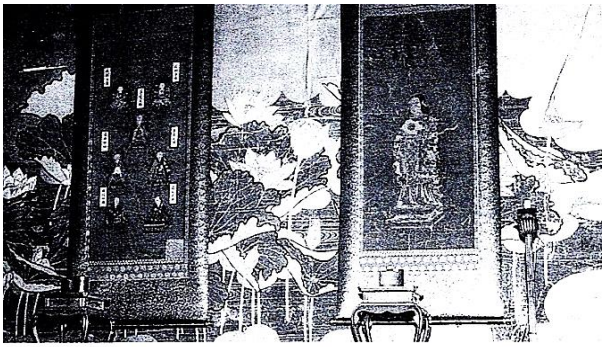
「**梅嶺**」という雅号を使っておりました。

蓮如上人御影



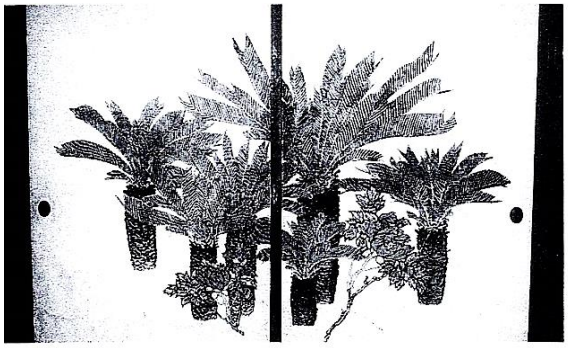
◆梅嶺の絵は、本堂（余間）の襖や書院の格天井などに描かれていますが、今は痛んで、本堂の修復の時に外され、裏堂においてあるものもあります。

寺の「しおり」より（一部）

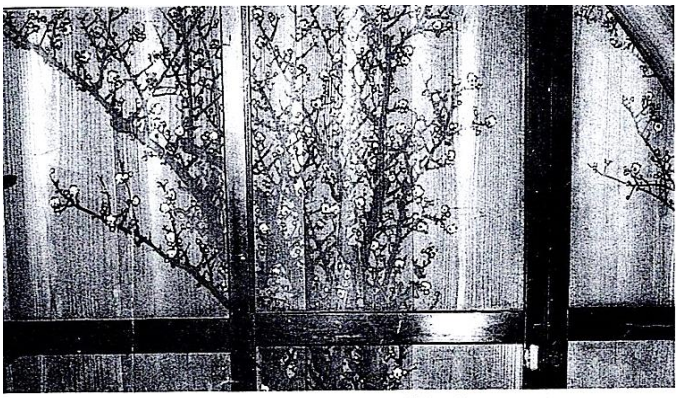


余間の「蓮池の絵」　梅嶺筆

左余間の襖「孔雀と牡丹の絵」　梅嶺筆



余間の唐紙「蘇鉄の絵」　梅嶺筆



庫裡の木戸　梅嶺筆　「梅の絵」

現　在

右余間

書院の格天井

蓮如上人像の掛軸の上に書かれたお経について　※2行でひとつの文章

觀彼如来本願力（かんぴにょらいほんがんりき）
凡愚遇無空過者（ぼんぐぐむくかしゃ）

＊かの如来の本願力を観(かん)ずるに、凡愚（ぼんぐ）、遇（もうお）うて空（むな）しく過（す）ぐるものなし。

阿弥陀如来の本願のはたらきに出遇うことができたならば、自分の力で迷いを超えることのできない愚かな者が、空しいまま終わることのない人生を歩むことができるのです。

一心専念速満足（いっしんせんねんそくまんぞく）
真實功徳大寶海（しんじつくどくだいほうかい）

＊一心に専念すれば速やかに、真実功徳の大宝海を満足せしむ。

疑いなく信じて念仏すると、仏は速やかに大いなる功徳の宝の海を満足させてくださるのである。

◆探してみましたら、この経は、親鸞が書かれた『**入出二門偈**』（にゅうしゅつにもんげ）の中にありました。
親鸞上人は七高僧に感嘆され、『教行信証』『正信偈』ができました。「入出二門偈」も七高僧の教えの中から感嘆された教義が記されています。

七高僧 ； 親鸞聖人が大変尊敬し選定した、インド・中国・日本の７人の高僧。〔インド(天竺)＝龍樹・天親、中国(震旦)＝曇鸞・道綽・善導、日本＝源信・源空（法然）〕
親鸞は、主著の「教行信証」には七高僧の言葉をたくさん引用している。

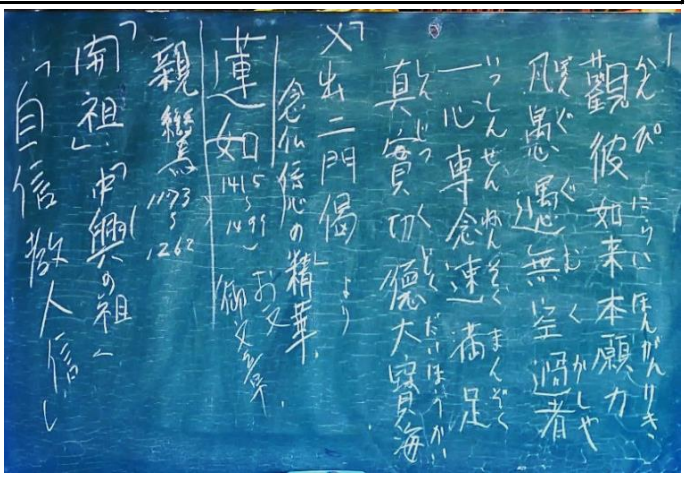
『**正信偈**』は親鸞聖人が書き残したもの。『正信偈』（しょうしんげ）はお経ではなく、親鸞聖人の主著『教行信証』の一部。『教行信証』はお釈迦さまの説かれた一切経を圧縮して仏教の真髄を明らかにされたもので、その『教行信証』を圧縮されたのが『正信偈』。

『**入出二門偈**』は、親鸞が著わした偈頌（げじゅ）。天親の『浄土論』の入出二門と、それを解釈した曇鸞・道綽・善導の解釈を讃嘆したもの。

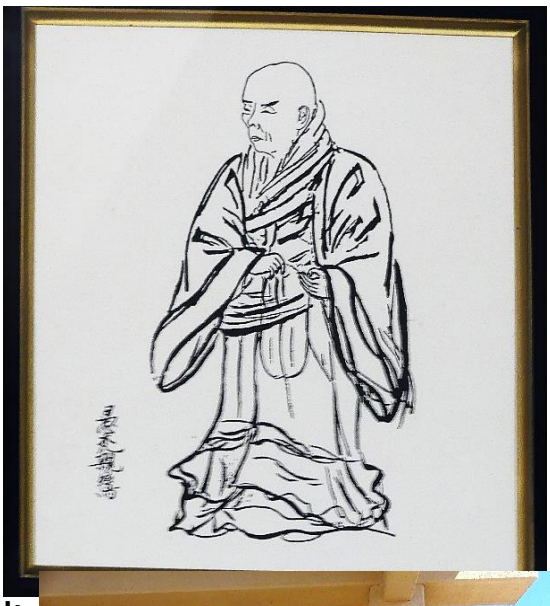
偈頌（げじゅ）＝ 経典中で、詩句の形式をとり、教理や仏・菩薩(ぼさつ)をほめたたえた言葉。4字、5字または7字をもって1句とし、4句から成るものが多い

◆**親鸞聖人**は「教行信証」を書きました。
蓮如上人は、この「教行信証」を何度も何度も読みました。そして、親鸞聖人の教えの最も大切な部分ばかりを、 仮名まじりでかみ砕いて書いた「御文章（ごぶんしょう）」（大谷派では「御文（おふみ）」）を、全国の門徒へ手紙として発信しました。これにより真宗は広く普及することとなりました。

◆親鸞聖人（1173-1262） **開 祖**
蓮如上人（1415-1499） **中興の祖** です。



親鸞聖人　書院にて



山門から見る本堂

◆蓮如上人は“念仏信心の精華である”と言われます。
蓮如上人は北陸、東北、関東を中心に自ら念仏の教えを説いて回り、平易な手紙である 御文章（御文(おふみ)）によって信者を増やしました。蓮如上人のおかげで「南無阿弥陀仏」の教えが、多くの人に伝わることとなりました。

◆「自信教人信」（自ら信じ人を教えて信ぜしむ）という教えがあります。“阿弥陀さまの本願の救いを自ら信じ、他人にも教え信じてもらう”…自分が自信を持って勧めなければ人には教えられないということです。

鐘楼

鐘

◆当寺は、今は西本願寺（正式名称；本願寺）ですが、この辺は、お東さん（東本願寺＝正式名称；真宗本廟）が多いです。
西本願寺のお寺はほとんどありません。当寺の檀家の多くはお東さんですが、お参りには私が行ってます。墓檀家と言うんですか、お墓もここにあります。

玄関　　庫裏

◆お寺の運営もだんだん難しくなっています。
世の中が変わってきましたし、皆さん年寄りになり参詣者も少なくなってきています。
コロナで、葬式・法事・おつとめの様子も大分変わってしまいました。
法座にみえる方も今は３人くらいで、多くて10人です。以前は月に8～9回やっていましたが、今は3～4回になっています。法座を減らしてなるべく多くの方に来ていただけるよう、布教師さんとも相談してやっています。

◆当寺も次の住職をどうするかという課題もありますが、お寺は宗教法人ですから何かを変更するとかの手続きは難しいです。以前、「赤渋教会」という説教場があり、私のおじいさん（21代 円純）がやっていました。本山からの付加金も出ていました。
この教会をなくそうということになりましたが、難しい手続きを、作左の会会長もつとめられた兵藤さんにやっていただきました。兵藤さんには大変お世話になりました。

赤渋町第１公民館の由来と歩み

○ 八田廣藏氏の寄付

昭和の初め頃、六ツ見村大字赤渋（現赤渋町）に住んでいた八田廣藏氏は、子供がなかったので家の断絶を心配して村の役員と相談し、村民が一同に集える集会施設を兼ねた説教場の寄付を申せ出た。村は廣藏氏亡き後の供養する約束をした。間もなく廣藏氏は亡くなってしまう。実際に寄付をしたのは、養子に入った八田政次と妻文子さんで、その内訳は廣藏氏の住んでいた東隣りの土地（集会所）5畝１５歩と説教場建設資金２,０００円、維持・管理のための小作付田畑約４反歩である。

○ 説教場の完成と維持・管理

この説教場は昭和１２年１月に完成するが、維持・管理するのに上三ツ木の圓立寺に託することになり、本願寺派赤渋教会となった。（昭和１７年１２月）しかし、赤渋教会の管理運営は門徒でなく赤渋町が行ってきた。

○ 町所有公民館への移行

昭和３７年１０月、赤渋町は岡崎市に編入して間もなく市街化され世帯数も１,５００戸（平成２０年４月）になる等集会所を取り巻く環境が大きく変化した。集会所の役割を充実させるため、赤渋教会を解散して土地と建物を町所有（地縁団体）に移行（平成１８年１０月）して、赤渋町第１公民館となった。

平成２１年３月吉日建立
赤渋町集会所問題調査・研究委員会

令和6年　各種行事法座予定表　　円立寺

平素はお世話になっております。お礼申し上げます。
ご多忙とは存じますが、お参り頂きますようご案内申し上げます。

月・日	種別	主催者	講師名	住所	時間
2月11日（日）	戦没者追悼法要	上三ツ木町 上三ツ木町女性部 共催		円立寺	午後1:30～
2月18日（日）	会員追弔会	上三ツ木明生クラブ		円立寺	午後2:00～
3月11日（月）	常例	布教協賛会	三井求	安城市	午後1:30～
3月28日（木）	檀那想佛	上三ツ木下三ツ木同行中	住職	円立寺	午後3:00～
4月28日（日）	春の永代経法要	円立寺	不死川昌史	大阪府	午後1:30～
6月11日（火）	常例	布教協賛会	高梨顕浄	豊川市	午後1:30～
7月11日（木）	常例	布教協賛会	加藤幸子	三重県	午後1:30～
9月29日（日）	秋の永代経法要	円立寺	山田教尚	三重県	午後1:30～
11月17日（日）	報恩講	円立寺	竹本崇爾	刈谷市	9:30～1:30～

作左の会　検索

一筆啓上・作左の会

ありがとうございました。

http://sakuza.g1.xrea.com/

（記）竹内 喜則